

第3章

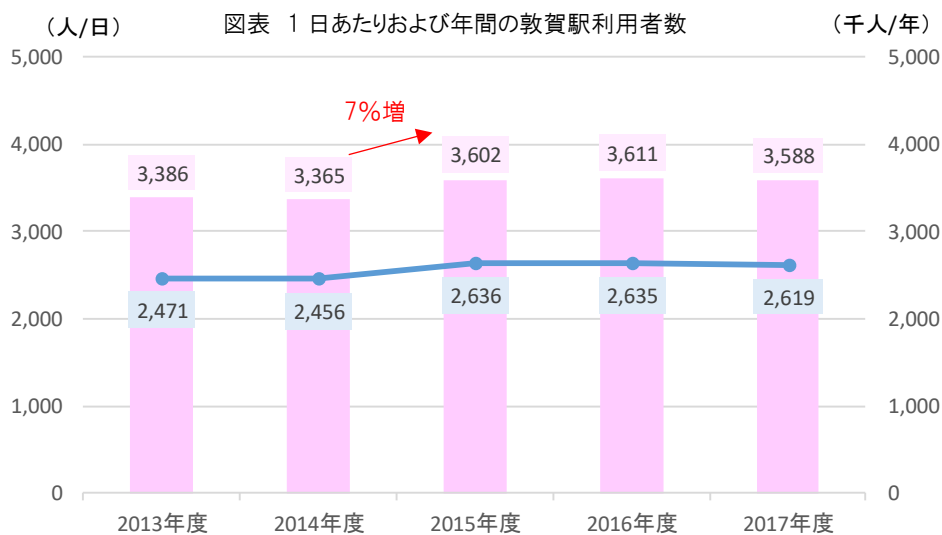
敦賀市の現況整理

3-1 敦賀市の現況

(1) 敦賀駅利用者数

敦賀駅の1日あたりの利用者数は2013年、2014年は約3,300人で推移していましたが、2015年以降は3,600人前後で推移しており、2015年の利用者数は2014年から約7%増加したといえます。年間利用者数についても、2013年、2014年は約240万人で推移していましたが、2015年以降は260万人を超えています。

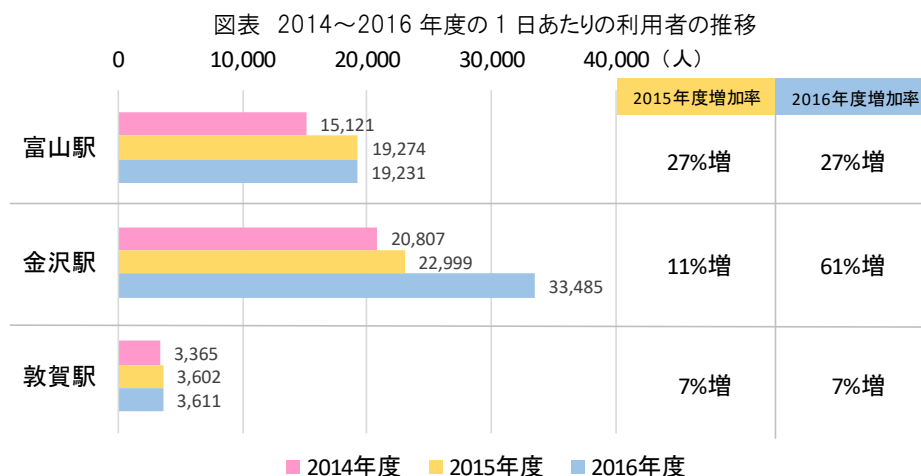
1日あたりの利用者数について北陸新幹線金沢開業前後の動きをみると、富山駅では2015年度、2016年度ともに27%増加しています。金沢駅では2015年度は11%、2016年度は61%と大幅に増加しています。一方、敦賀駅では2015年度、2016年度ともに7%増と横ばいで推移していることから、敦賀市において北陸新幹線金沢開業の効果はあるものの、大きな影響を及ぼしていないと考えられます。



※棒グラフ(左軸)が1日あたりの利用者数、折れ線グラフ(右軸)が年間利用者数を示す
 ※2017年度の1日あたりの利用者数は(2017年度の年間利用者数÷365÷2)で算出

出典：福井県、「福井県統計年鑑」(2013～2016)

敦賀市が西日本旅客鉄道(株)に独自に行なった聞き取り調査(2017年度の年間利用者数)



※2015年、2016年の増加率は2014年を基準として比較した結果を表している

※2015年度の金沢駅の数値は、並行在来線(IRいしかわ鉄道)の利用者数が含まれていない

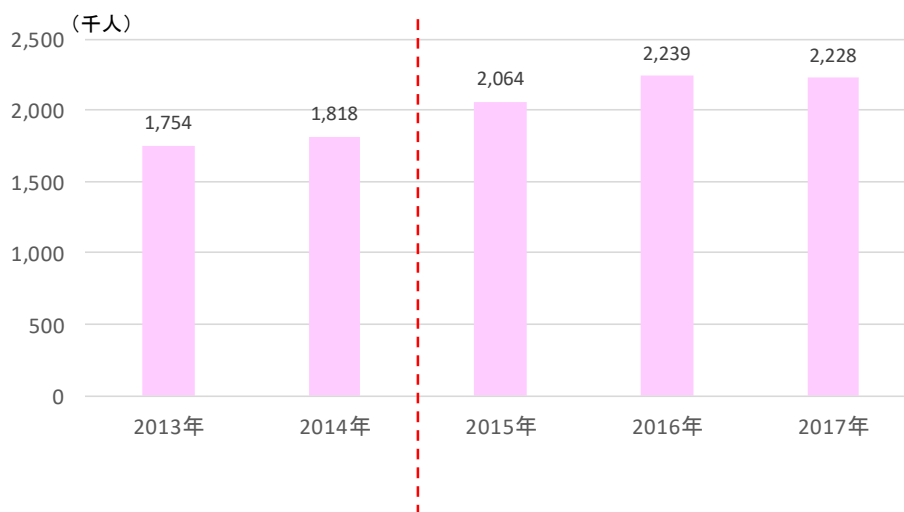
出典：福井県、「福井県統計年鑑」
 石川県、「石川県統計書」
 富山県、「富山県統計年鑑」

(2) 観光入込客数

観光入込客数は 2015 年に 200 万人を超え、2017 年には 222 万 8 千人となっています。2015 年に新たな観光施設として敦賀赤レンガ倉庫が開業したことやライトアップイベント「敦賀港イルミネーション『ミライエ』」が 2015 年から始まったことが要因として考えられます。

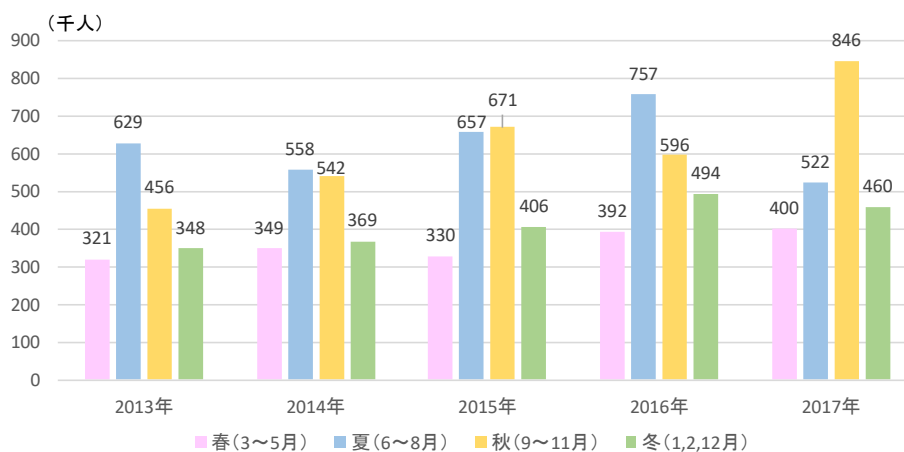
また、季節別に観光入込客数をみると、夏と秋の観光入込客数が多くなっており、海水浴などのアクティビティや、敦賀まつりを始めとするイベントを目的とした来訪者が多いと考えられます。

図表 敦賀市の観光入込客数



出典：福井県、「福井県観光客入込数(推計)」(2013～2017)

図表 敦賀市の季節別観光入込客数



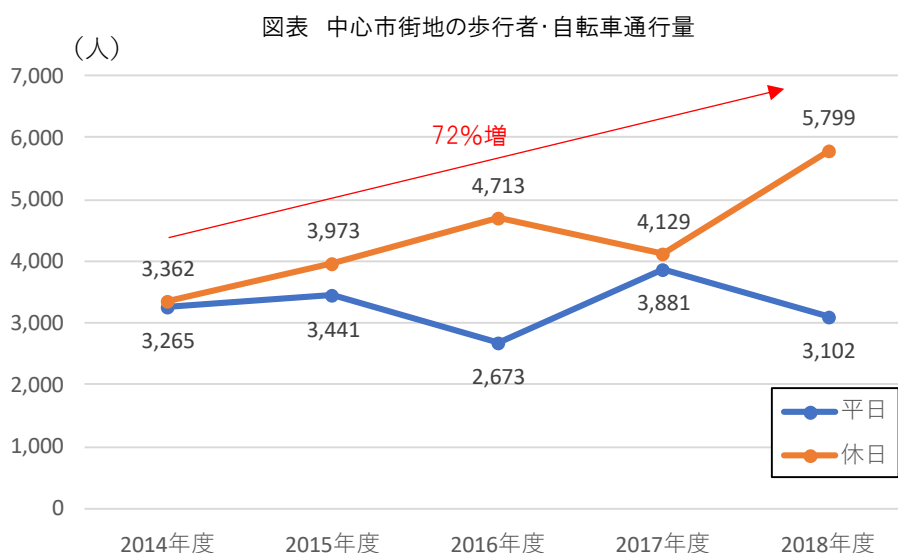
出典：福井県、「福井県観光客入込数(推計)」(2013～2017)

(3) 中心市街地の活性化

①中心市街地の歩行者・自転車通行量

平日の歩行者・自転車通行量は、約 3,000 人とほぼ横ばいで推移しています。また、休日の歩行者・自転車通行量は平日を大きく上回っており、2015 年までは 3,000 人台で推移していましたが、2016 年度に 4,000 人を超え、2018 年には 5,799 人となり、2014 年度の約 72% 増となっています。

中心市街地の歩行者・自転車通行量が増加傾向にあるのは、2017 年 3 月のキッズパークのオープンや、神楽商店街を始めとする各商店街において店舗のリノベーションやイベント開催など、中心市街地を訪れる機会が多く創出されていることが要因として考えられます。



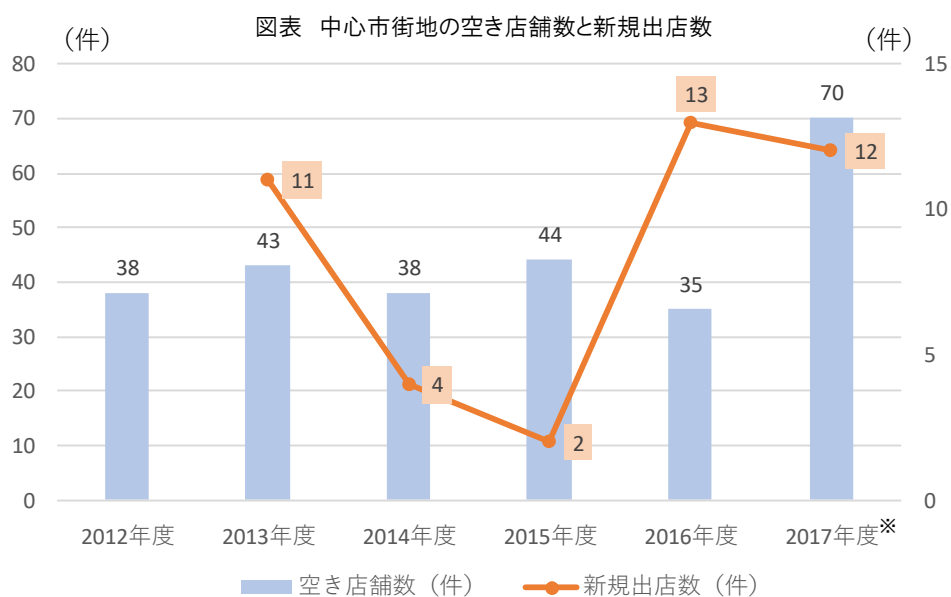
※本グラフでは、5 地点(白銀交差点(駅前商店街)、神宮前交差点、神楽商店街、博物館通り
付近交差点、金ヶ崎緑地前)での調査結果の合計数を示している。
※2016 年度の平日のみ、4 地点での調査結果の合計数を示している。

出典: 敦賀市による中心市街地の歩行者・自転車通行量調査の結果をもとに作成

② 中心市街地の空き店舗数と新規出店数

中心市街地の空き店舗数は、2017年度は70件となっています。また、調査方法が変わる以前の5年間(2012年度～2016年度)の空き店舗数の減少率を見ると、7.9%となっており、5年間で3件の空き店舗の減少がみられます。一方、中心市街地の新規出店数をみると、5年間で年間平均8.4件の新規出店がみられます。

中心市街地の歩行者・自転車通行量が増加傾向にあることもあり、今後、北陸新幹線敦賀開業に向けて、中心市街地に新規出店を検討する事業者が増えることが予想されます。引き続き、中心市街地の空き店舗数を減らし、新規出店数を増やしていくためには、事業者向けに空き店舗情報の提供や所有者と出店希望者とのマッチングを効果的に行えるような取り組みが重要です。



※空き店舗調査は2017年度より調査方法が変更されている
 ※新規出店数の調査は2013年度以降実施

出典：港都つるが株式会社による空き店舗数調査および
 新規出店数調査をもとに作成

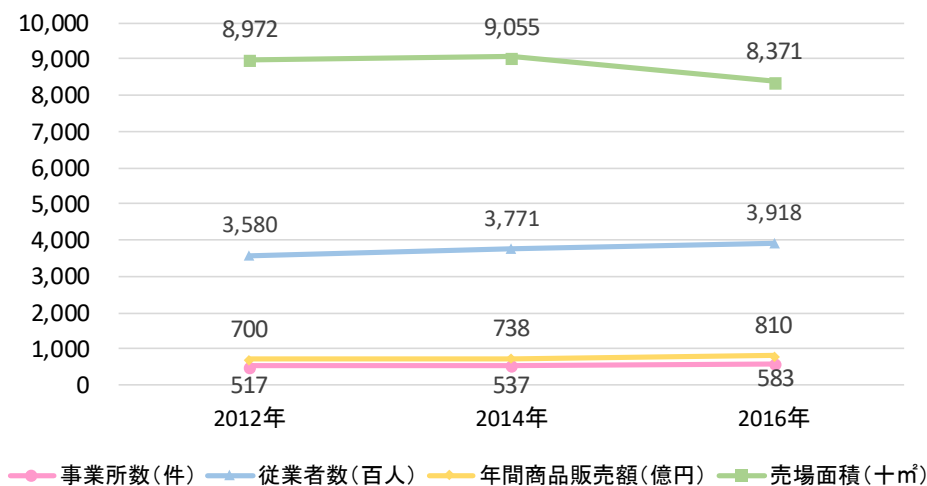
(4) 敦賀市の商業

敦賀市の小売業について、2012年から2016年の推移をみると、事業所数、従業者数、年間商品販売額は増加傾向にありますが、売り場面積は縮小傾向となっています。

また宿泊・飲食サービス事業について2012年から2016年の事業収入の推移をみると、飲食サービス事業は26%増となっていますが、宿泊事業は横ばいとなっています。

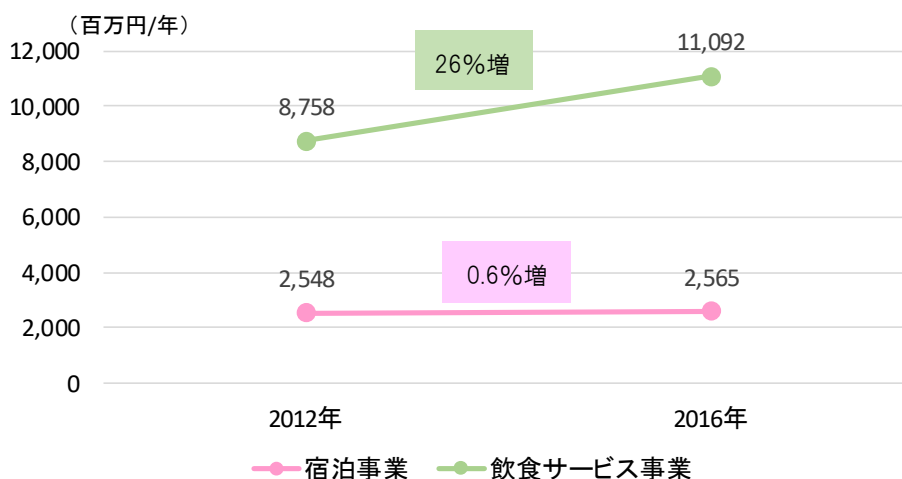
北陸新幹線敦賀開業を契機に多くの来訪者が訪れると想定されることから、小売業や宿泊・飲食サービス事業において、事業所数や事業収入増加のための施策が必要だと考えられます。

図表 小売業の推移



参考：総務省統計局、経済産業省大臣官房調査統計グループ、「経済センサス-活動調査 事業所に関する集計産業別集計」

図表 宿泊・飲食サービス業の売上の推移



参考：総務省統計局、経済産業省大臣官房調査統計グループ、「経済センサス-活動調査 事業所に関する集計産業別集計(サービスB)」

(5) 市街地整備の状況

新たに建設される新幹線駅舎のデザインコンセプトは、平成 30 年 2 月に「空にうかぶ～自然に囲まれ、港を望む駅～」に決定し、整備が進められています。

駅西側は、市内観光の出発点として、立体駐車場の整備や官民連携による宿泊・飲食・公園・公共機能を持つ、来訪者や市民の日常利用によるにぎわい拠点の整備を進めています。一方駅東側については、広域観光の出発点として、新幹線駅前広場の整備や、新幹線駅前広場と国道 8 号バイパスを結ぶアクセス道路の整備を進めています。

また敦賀市は、国土交通省の「景観まちづくり刷新支援事業」における全国 10 地区のモデル地区に指定され、「観光拠点『人道の港』の整備とまちなみ刷新」をテーマに、2017 年度より3年間、国から集中的な支援を受け、「人道の港」交流施設整備事業、レンタサイクルの拠点整備、本町通り(国道 8 号)道路空間整備など 7 つの事業により中心市街地の整備を進めています。

図表 敦賀駅西地区土地活用事業の整備イメージ(今後の協議により随時修正)



図表 北陸新幹線敦賀駅 駅舎イメージ(東側)



図表 北陸新幹線敦賀駅 駅舎イメージ(西側)



図表 景観まちづくり刷新支援事業一覧

事業名	事業概要	整備イメージ
①「人道の港」交流施設整備事業	・金ヶ崎周辺に実在した税関等の建築物の復元によるノスタルジー空間の創出	
②レンタサイクル拠点整備事業	・敦賀駅からの二次アクセス向上 ・市内 9 か所のステーション設置	
③観光案内看板整備事業	・市内 16 か所に観光案内看板を新設または改修(多言語対応)	
④景観形成推進地区外観整備事業	・アーケード及び商店街沿いの店舗等の外観改修による景観形成事業	
⑤本町通り道路空間整備事業	・国の直轄工事(4車線→2車線)に伴い創出される空間を魅力的な歩行空間へ整備	
⑥本町通り道路空間ストリートファニチャー整備事業	・デザインベンチ、街路灯等の設置	
⑦敦賀駅前立体駐車場整備事業	・オルパークに隣接する立体駐車場の整備	

(6) 敦賀市の現況 総括

(1)～(5)の結果をもとに、敦賀市の現況について分析した結果、以下のような傾向がみられました。引き続き、効果の拡大に向けて着実に取り組みを続けていく必要があります。

①敦賀市中心部への来訪者は増加傾向

北陸新幹線金沢開業後の駅利用者数を見ると金沢駅で約 1.6 倍、富山駅で約 1.3 倍と大きく伸びています。本市では、「敦賀赤レンガ倉庫」などの新たな観光施設の開業、「敦賀港イルミネーション『ミライエ』」などの新規イベントの開催、商店街における店舗改装などによる個店の魅力向上などの取り組みの成果により、敦賀駅利用者数、観光入込客数、歩行者・自転車通行量は概ね増加傾向にあります。しかし、今後敦賀開業に向けて、金沢駅などと同様の伸びを目指し、効果的な PR や魅力的な観光コンテンツづくりなど更に取り組みを強化する必要があります。

②まちなか整備は進められている

「景観まちづくり刷新支援事業」に採択されたことで、金ヶ崎周辺地区における新ムゼウムの移転拡充、国道 8 号の 2 車線化に伴う道路空間の整備、レンタサイクル拠点の整備、観光案内看板の整備など、中心市街地におけるハード整備が加速して進められています。

また敦賀駅前においても、駅西側で立体駐車場や敦賀駅西地区土地活用事業、駅東側で広域観光の出発点となる新幹線駅前広場の整備やアクセス道路の整備など、嶺南地域の玄関口としての整備が順次進められています。

北陸新幹線敦賀開業後は、より多くの方の来訪が想定されます。今後は本市での滞在時間を増やすことに加え、嶺南の玄関口として、近隣市町と連携した魅力的な観光コンテンツを造成するなど嶺南地域全体での取り組みを推進する必要があります。また、意欲ある事業者が中心市街地で活躍できる場を設けることができるよう、商店街の空き店舗をホームページ上で紹介するなど出店希望者と効果的にマッチングできる取り組みを強化していくことも重要です。

引き続き、敦賀市中心部のハード整備に合わせたソフト施策などを推進することで、多くの来訪者が快適にまちなかを回遊し、敦賀市をはじめとする嶺南地域を十分に楽しむことができる環境を整備することが必要です。

また、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、国内旅行・インバウンドとともに旅行者が減少し、新しい生活様式の実践、行動の自粛、働き方や旅行形態の変化が起きていることを踏まえた対応が必要です。

3-2 首都圏からみた敦賀市の評価

(1) 敦賀市の認知度とイメージ

①概要

2017 年度に実施した首都圏ライフスタイル調査の結果を用いて、敦賀市の認知度とイメージに関する分析を行いました。

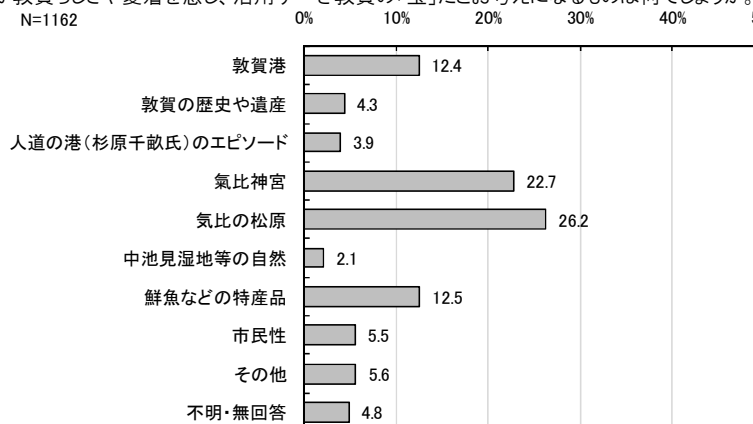
調査方法	WEB アンケート調査 (JUSTSYSTEMS 社の Fastask を利用)
対象者／抽出方法	首都圏 (1 都 7 県、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・群馬県・栃木県・茨城県・山梨県) 在住の 20 代から 60 代の一般男女を Fastask モニター会員から無作為抽出
回収数	330 サンプル (配信数 1,779 名)

②調査結果

- ・ 敦賀市の認知度は「知っている」が 64.8%で、その内訳を性別で見ると、男性は 76.2%、女性は 46.0%と性別の差が大きく、女性にはあまり知られていないといえます。
- ・ 観光での訪問有無は、「ない」が 85.0%です。訪問したことがある回答者に訪れた観光地、観光施設を尋ねたところ、「覚えていない、不明」が最も多く、観光地、観光施設では「金ヶ崎城跡」「敦賀港」「氣比神宮」「水島」に複数の回答がみられました。
- ・ 敦賀市のイメージに関する自由記述回答をイメージが明確と不明確なものに分類しました。「イメージがない」が最も多く 37.1%であり、「あいまいなイメージ」「間違ったイメージ」を合わせると 約 4 割が「敦賀市のイメージ」がつかめていないといえます。
- ・ イメージが明確な人の回答では「原発」が 24.1%と最も高く、「海・港」、「食」と続きます。敦賀市民が敦賀らしさや愛着を感じ、活用すべき「宝」だと感じている「氣比の松原」や「氣比神宮」のイメージが首都圏では浸透していないといえます。

※参考 第6次敦賀市総合計画策定にかかる市民アンケート調査

あなたが敦賀らしさや愛着を感じ、活用すべき敦賀の「宝」だと思えるものは何でしょうか。(〇は一つ)
N=1162



(引用元: 敦賀市, 2016, 『第6次敦賀市総合計画策定にかかる市民アンケート調査 結果報告書』p23)

(2) 首都圏メディア関係者による意見・評価

①概要

2017年に、敦賀市の観光コンテンツをメディア関係者に知ってもらうため、首都圏のメディア関係者を招へいし、市内11箇所(地区)の観光施設などを巡るツアーを実施しました。

意見交換会やアンケート調査では、人道の港や異国情緒など、敦賀市独自のストーリーや金ヶ崎周辺のレトロ性は強みであるといった意見がみられました。一方、観光客の受入体制、突出した観光資源による差別化、ターゲット別の内容強化、PRの切り口などが課題として挙げられました。

実施日	2017年11月8日(水)～9日(木) 1泊2日
招へいメディア	首都圏メディア6名 (新聞&WEB版/WEBマガジン3社/WEBニュース/タ刊紙)
内容	市内観光施設など11箇所(地区)を訪問(地元ガイド付) 北陸新幹線「敦賀開業」セミナー・意見交換会および個別アンケートを実施

②意見交換会・事後アンケートの結果

〔意見交換会〕(主な意見)

- ・ ストーリー性が重要(杉原千畝、人道の港など、ストーリー性が感じられる)「誰を伝えたいのか」核となる人がいると良い。
- ・ 敦賀＝「何か」というような、インパクトのある「何か」が必要
- ・ ロシアとの関係が面白い(ヨーロッパ軒のロシア語看板など)。ロシアの異国情緒を感じられる街にするとおもしろいのでは。
- ・ レトロモダンな雰囲気はフォトジェニックになる。
- ・ 全体的に言えるが刺さるものが欲しい。
- ・ 敦賀でしか体験できないもの(こと)があれば、と思う。

〔事後アンケート〕(主な意見)

- ・ まだ外からの観光客受入体制が十分に整ってはいない。街全体がこれから誘致に向けて努力しているという段階だと思った。杉原千畝さん関係の施設を充実させることで、観光の柱の一つは可能だと思う。
- ・ 誰に向けて何を発信していく、というのがまだ定まっていなように感じた。年齢・性別ごとに何ができる、ということを整理してから、各コンテンツの内容・ストーリーを整備することが必要。
- ・ 期待以上の観光資源があると感じた、しかし、同時にもったいないとも思う。突出した何かがあれば差別化がしやすい。どこかで見た感じ、の小粒版、が現在の印象。
- ・ PRの切り口をもっとクリアにはっきりさせることが必要。若い人が若い人を呼ぶ努力が必要、街が動いているイメージを植え付ける。
- ・ 最終的には人。人は人を通じてその土地を好きになる。どんな観光資源も、どんな人が係るかによって違うものにもなる。

3-3 上位計画および分野別計画の整理

(1) 第7次敦賀市総合計画

「第7次敦賀市総合計画」では、人口減少対策を政策目標とする地方版総合戦略と一本化し、移住・帰住の視点を加えるとともに、人口減少対策に有効と考えられる産業政策や教育政策を重視しつつ、全政策分野における取組みを体系化しています。また、基本理念において、新幹線開業を契機としたまちづくりの方向性を示しています。

図表 第7次敦賀市総合計画 基本構想

	概	要	対応する SDGs
基本理念	「次世代につなげる 夢と希望に満ちた 住みたくなるまち敦賀」 北陸新幹線敦賀開業を交通の要衝としてさらなる発展の機会として捉え、市民とともに、敦賀に集う誰もが夢と希望を感じ、住みたくなるまち敦賀を目指す		
	【戦略1 健康福祉分野】 世代をつなぎ暮らしやすい環境づくり ・安心して子育てができる環境を整備・発信 ・障がい福祉や地域包括ケアシステムを推進 ・健康寿命の延伸等を推進することで、一生涯安心福祉や地域医療を充実		
戦 略	【戦略2 教育文化分野】 次世代につなげる人づくり ・全国に誇り得る、特色ある教育環境を整備 ・人道の港のエピソードや地域の特性を生かした「学び」を充実することで、敦賀を次世代につなげ、支える人づくりに取組む		
	【戦略3 産業観光分野】 地域と人をつなぐ厚みのある産業づくり ・強みを活かした地場産業の強化と「つながり」と「多様性」を重視した産業政策を展開 ・新たな生活様式への対応等に向け、主力産業である商業の稼ぐ産業化を推進 ・地域資源を活かした受け皿づくりを推進し、広域的な観光圏の形成に取組む		 外
	【戦略4 都市基盤分野】 未来につなげる都市づくり ・北陸新幹線敦賀開業に向け、その受け皿づくりの総仕上げを行う ・広域的な観光圏・経済圏を実現する周辺地域とのネットワークの強靱化 ・生活基盤の充実化と交流拠点にふさわしい都市づくりに取組む		 外
	【戦略5 安全安心分野】 絆でつなぐ安全安心なまちづくり ・笹の川の整備促進等の防災対策や施設耐震補強等の減災対策に取組む ・原子力発電所立地自治体であることや新型コロナウイルス感染症拡大等を踏まえた、万が一の防災体制等を整え、安全安心なまちづくりに取組む		
	【戦略の推進に向けて】 市民とともに進めるまちづくりの深化 ・「市民とともに進める」まちづくりをさらに深化 ・交流都市 敦賀の特性を活かし、まちへの誇りを育み、多様性を重視し、全ての市民の皆さんとともに、各戦略とこれに基づく各種取組を推進する		

(2) 敦賀市観光振興計画

「敦賀市観光振興計画」では、基本方針として「多様な観光資源の活用と保全」「ホスピタリティの充実」「マーケティング戦略の推進」「観光振興の推進体制の強化」の4つを掲げ、本市における観光のあり方と方針について定めています。

図表 敦賀市観光振興計画の課題と基本方針

敦賀市観光振興計画(2013年度～2022年度)	
課題	
<p>(1)観光都市としてのイメージ定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光資源の整備や観光プロモーション等により市内外にイメージ定着を図る <p>(2)受入れ体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民のホスピタリティを高める 観光ガイド・ボランティア等の育成、宿泊、案内板、交通アクセスなどの環境改善、SNS等を利用した情報提供の充実など観光客の視点に立った受け入れ体制の整備 <p>(3)多様な観光資源の活用と保全</p> <ul style="list-style-type: none"> マーケティングの視点のもと、既存の観光資源のブラッシュアップや活用方策の見直し、新商品の開発を図る 保全や保護の観点を踏まえつつ誘客効果の高い観光資源の整備・活用を図る <p>(4)観光振興の推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民を含めた推進体制の確立・強化 「観光カリスマ」と呼ばれるようなリーダー的人材の育成・登用 近隣自治体や県との広域連携 	
基本方針	
<p>①多様な観光資源の活用と保全</p> <ul style="list-style-type: none"> 金ヶ崎周辺やJR敦賀駅周辺の整備構想等、先行計画との均衡を図りながら、観光の核となるエリアを形成する 多様な観光客のニーズに対応した様々な周遊コースの設定や、農林水産業やエネルギー産業を活用した産業観光・体験型観光の推進を図る <p>②ホスピタリティの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 常に市民及び観光事業者のおもてなし意識の醸成を図り、それを先導するリーダーの育成を推進する 観光客に不便なく観光をしていただくために、観光案内板の整備、情報拠点の充実等を図る <p>③マーケティング戦略の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 敦賀のどんなことをPRしていきたいのか、観光客にどんなことが求められているのかを捉え、的確なコンセプトメイキングを行う コンセプトやイメージを効果的に定着させるため、ターゲットに応じた情報戦略を立て、多様化する情報通信ネットワーク社会への対応も考慮しつつ観光情報の発信・提供に取り組む <p>④観光振興の推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 産官学が協力し、観光振興における役割分担を明確化しながら、協働により取組を進めるため、(社)敦賀観光協会が連携の中心となり、観光事業の推進を担えるよう組織体制及び運営体制の強化に取り組む 近隣市町との連携を図り、広域での観光ネットワークの形成を推進する 	